

子育てネットワーク実践の誕生について

相戸 晴子

キーワード：子育てネットワーク実践、社会的位置づけ、誕生の時期・地域・時代状況

1. はじめに

高度経済成長期以降、核家族化や就労形態、家族形態の価値観の変容、また地域の関係性の希薄化等により、家庭の子育て機能の低下や子どもの発達への弊害、孤立や不安の子育て問題が表出する時代となった。そのような状況の中、子どもや子育てに関わる市民が中心になり、各時代の特徴や課題を映す子育てグループ活動がさまざま誕生してきた。例えば、1970年代以降は子どもの文化活動の場や機会を創り出してきた「子ども劇場・親子劇場運動」等の地域教育文化活動²、また、1980年代以降は子どもの遊びや親同士の交流を目的とした「子育てサークル」³等個人的欲求を満たす活動、そして1990年前後からは孤立の子育てや育児不安の解消等に向けた「子育てネットワーク」実践⁴という社会的欲求⁵を満たすための活動等が特徴的な実践としてあげることができる。

それら子育てグループの活動は、1990年前後以降から医療・保健、福祉、教育、女性等の領域から事例研究⁶としても取り上げられるようになり、孤立からの解放、ストレスや不安の解消、虐待予防、子どもや親の育ちの場になっている等、その活動の意義や効果の評価もなされるようになる。それらの評価から、子育てグループ活動は、1990年代以降拡充されてきた子育て支援・家庭教育支援施策の文言にたびたび登場していくことになる。しかし、子育てグループ活動が評価される一方、子育てや家庭等私的領域の子育てグループ活動が国の施策に位置づけることは国家介入のしくみに陥っているのではないかと指摘もあり、子育てグループ活動の意義や効果だけではなく、社会的な位置づけについてもとらえていく必要があるのではないかと考えるようになった。

そこで本稿では、子育てグループ活動の社会的な位置づけをあきらかにしていくことを目的に、子育てグループ活動、とりわけ1990年代以降に誕生し、施策にも多く登場している子育てネットワーク実践に焦点をあて、として、全国の子育てネットワーク実践がいつ、どこで、どのような時代状況の中で誕生したのかについての考察を試みる。

2. 子育てネットワーク実践の誕生について

「表1⁸」は、全国の主な子育てネットワーク実践の誕生年とその年の主な法制度や出来事を記した表である。ここで取り上げる「主な子育てネットワーク実践」とは、2000年から2005年にかけて国や全国規模で活動するNPOが実施した子育てネットワークの集会等への登壇者、施策策定委員、国やNPO、研究者が実施した助成事業や調査で取り上げられ、公に公開されている事例のうち、発足年がわかった122事例をもとに筆者が作成した内容である。いずれの活動も、子育て当事者や子育て支援ボランティア等市民主体により誕生したという共通点を持つ。

子育てネットワーク実践の誕生について

表1 全国の主な子育てネットワーク実践の誕生年と出来事について

年	「子育てネットワーク」実践名	備考（主な出来事等）
1988 (S63)	○貝塚子育てネットワークの会（大阪府貝塚市）	*1980年代、育児不安や育児ストレスが社会問題 *1980年代、子どもの育ちの問題（例えば、時間・空間・仲間の「三間（さんま）」を減少等）
1990 (H2)		*前年度の合計特殊出生率「1.57ショック」
1991 (H3)	○おひさまひろば（京都府福知山市）	*1.17：湾岸戦争
1993 (H5)	○茅ヶ崎子育てサークル連絡会（神奈川県茅ヶ崎市） ○徳島子育てネットワーク くすのき（徳島県徳島市）	*1991年3月～1993年10月：バブル崩壊
1994 (H6)	○ひらがなくらぶ（静岡県浜松市） ○彦根子育てネットワーク（滋賀県彦根市） ○高槻育児サークルネットワーク「ティピー」（大阪市高槻市） ○甘木市子どもの文化ネットワーク（福岡県甘木市）	■12.16：文部・厚生・労働・建設省の4大臣合意 「今後の子育て支援のための施策の基本的方向について（エンゼルプラン）」 ■12月18日：大蔵・厚生・自治省の3大臣合意。 「緊急保育対策等5ヵ年事業」 *11.27：愛知・大河内清輝くんいじめ自殺事件
1995 (H7)	○さっぽろ子育てネットワーク（北海道札幌市） ○育児サークル交流会（埼玉県上尾市） ○菊川町子育て支援ボランティアネットワーク（静岡県菊川町） ○OSAKAI 子育てトライアングル（大阪府堺市） ○北九州子育て支援と子ども文化ネットワーク（福岡県北九州市） ○むくどりホーム・ふれあいの会（北海道札幌市） ○こころの子育てインターネット関西（全国・事務局奈良県斑鳩町）	*1.17：阪神淡路大震災 *3.20：地下鉄サリン事件
1996 (H8)	○プロポジション・ネットワーク（静岡県浜松市） ○とよかわ子育てネット（愛知県豊川市） ○子育てネットワーク ハートフル・ママ（三重県大山田村） ○パソコンネットマザー（京都府京都市南区） ○伊丹子育てネットワーク（兵庫県伊丹市） ○マミーズ・ネット（新潟県上越市） ○子育てサポーター・チャオ！（埼玉県越谷市） ○子育てを考える会「グレープ」（神奈川県川崎市多摩区） ○こころの子育てインターネット大阪（大阪府大阪市）	
1997 (H9)	○くしろ子育て支援ネットワークいるかファミリー（北海道釧路市） ○育児サークルネットワーク・かなざわ（石川県金沢市） ○ひろがれ子育てネットワーク和歌山（和歌山県和歌山市） ○京都市子育てネットワーク（京都府京都市伏見区） ○あべの子育て支援地域ネットワークこももネット（大阪府大阪市） ○子育てネットワーク西宮（兵庫県西宮市）	*6.27：神戸連続児童殺傷事件、自称「酒鬼薔薇聖斗」の中3男子逮捕。 ■12.17：介護保険法公布

相戸晴子

	<p>○田川地区子育てネットワークたんたん (福岡県田川市)</p> <p>○あいあいネットワーク (福岡県前原市)</p> <p>○筑豊子育てネットワーク (福岡県飯塚市・嘉穂郡)</p> <p>○子育て生活応援団育児サークルネットワーク (石川県金沢市)</p> <p>○交野市子育てサークルネットワーク「ティンクル」 (大阪府交野市)</p> <p>○子育てネットワーク「トライアングル」 (長野県飯田市)</p>	
1998 (H10)	<p>○MIYAGI 子どもネットワーク (宮城県仙台市)</p> <p>○やまがた育児サークルランド (山形県山形市)</p> <p>○育児サークルネットワーク (千葉県市川市)</p> <p>○へぐり00 ネット (奈良県平群町)</p> <p>○わはは (輪母) ネット (香川県高松市)</p> <p>○地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会 (福岡県福岡市)</p> <p>○河内子育てネットワーク (大阪府八尾市)</p> <p>○滋賀子育てネットワーク (滋賀県竜王町)</p> <p>○子育てネットワーク・ピッコロ (東京都清瀬市)</p> <p>○心の子育てネットにしよどがわ (大阪府大阪市西淀川区)</p> <p>○乳幼児子育てネットワーク・ひまわり (福岡県北九州市)</p> <p>○エポック 10 子育てグループ連絡会 (東京都豊島区)</p> <p>○泉南子育てサークルネットワーク 小さい友の会 (大阪府大阪市)</p> <p>○子育て支援ネットワーク MOJI (福岡県北九州市門司区)</p> <p>○東広島・賀茂子育てネットワーク「りとるはんど」 (広島県東広島市)</p>	<p>■3.25: 特定非営利活動法人促進法公布</p> <p>■4.9: 文部省生涯学習政策局男女共同参画学習課に家庭教育支援室を設置。</p> <p>■6.30: 文部省中教審答申「幼児期からの心の教育の在り方について」(新しい時代を拓く心を育てるために)</p>
1999 (H11)	<p>○マミーズ・ネットワーク清水 (静岡県清水市)</p> <p>○子育てネットワークわいわいねっと (三重県名張市)</p> <p>○NPO 法人久居市子育て支援ネットワーク NPO どんと (三重県久居市)</p> <p>○亀岡子育てネットワーク (京都府亀岡市)</p> <p>○熊取子育てネットワーク (大阪府熊取町)</p> <p>○子どもの環境を考えるネットワーク (兵庫県明石市)</p> <p>○尼崎子育て応援ネットワーク「夢発信」(兵庫県尼崎市)</p> <p>○ゆうゆうとっとり子育てネットワーク (鳥取県鳥取市)</p> <p>○宗像子育てネットワークこねっと (福岡県宗像市)</p> <p>○彩の国さいたま子育てネットワーク (埼玉県さいたま市)</p> <p>○新座子育てネットワーク (埼玉県新座市)</p> <p>○育児サークルぶらねっと (大阪府茨木市)</p> <p>○母親ネットワーク Prim (福島県郡山市)</p> <p>○名張市子育てサークル協議会 (三重県名張市)</p> <p>○なかがわっこ (愛知県名古屋市)</p>	<p>■2.12: 文部省「家庭教育手帳」および「家庭教育ノート」作成・配布。</p> <p>■6.23: 男女共同参画社会基本法公布</p> <p>*11.22: 東京文京区音羽幼稚園事件</p> <p>■12.17: 少子化対策推進関係閣僚会議「少子化対策推進基本方針」</p> <p>■12.19: 大蔵・文部・厚生・労働・建設・自治省の6大臣合意、「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について(新エンゼルプラン)」</p>
2000 (H12)	<p>○パステルクラブ (東京都目黒区)</p>	<p>■4.11: 文部省生涯学習局長通達「子育て・家庭</p>

子育てネットワーク実践の誕生について

	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども&まちネット名古屋(愛知県名古屋市) ○育児サークル交流会 (奈良県橿原市) ○わかやま子育てサポートネットワーク (和歌山県和歌山市) ○城東区子育てサークル連合会 (大阪府大阪市城東区) ○泉佐野子育てネットワーク「三輪車」(大阪府大阪市泉佐野) ○寝屋川で子育てを楽しむ会 (大阪府寝屋川市) ○子育てネットワーク研究会『こねっと研』(主に福岡県全域) ○志免町子育てネットワーク (福岡県志免町) ○子育てネットワークえひめ (愛媛県松山市) ○子育てサークルネットワークさせぼ (長崎県佐世保市) ○NPO 法人地域生活支援ネットワークサロン (北海道釧路市) ○わこう子育てネットワーク (東京都和光市) ○おやこの広場びーのびーの (神奈川県横浜市) ○子育て応援隊 (長崎県島原市) ○ふじママネット (静岡県富士市) 	<p>教育支援への公民館活用」方針を周知</p> <p>*5.3 : 17歳少年による佐賀バスジャック事件</p> <p>■5.24 : 児童虐待の防止等に関する法律</p> <p>■11.28 : 文部省生涯学習審議会「家庭の教育力の充実のための社会教育行政の体制整備について」</p> <p>■12.22 : 「教育改革国民会議」最終報告書『教育を変える17の提言』により、「子どもの行動や意識の形成に最も大きな責任を負うのは親」との文言が明記され、親の第一義的責任が提言された。</p>
<p>2001 (H13)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○NPO 法人子育てネットワークとから (北海道芽室町) ○NPO 法人チャイルドケアセンター大野城 (福岡県大野城市) ○NPO 法人山形親子療育支援ネットワーク (山形県全域) ○子育てネットワーカー (半田) (愛知県半田市) ○子育てサポートぺあれんつ (静岡県浜松市) ○子どもが育つまち天白「天白子ネット」(愛知県名古屋市天白区) ○NPO 法人子ども達の環境を考える ひこうせん (岡山県備前市) ○子育てネットサポートwill こねっと (秋田県秋田市) ○ちびっこランドOB会 (秋田県秋田市) ○子育て支援グループ amigo (東京都世田谷区) ○杉並子育てサークルネットワーク連絡会 (東京都杉並区) ○小平子育てネットワークるんるん♪ (東京都小平市) ○安城市子育てネットワーク「わがママ倶楽部」(愛知県安城市) ○子ども感動コミュニティ機構 (東京都北区) ○長岡子育てライン「三尺玉ネット」(新潟県長岡市) ○地域子育てネットシリーズ (大阪府枚方市) ○子育てサークルネット橋本 (和歌山県橋本市) ○子育てねっと・さかいで (香川県坂出市) ○世田谷子育てネット (東京都世田谷区) 	<p>■7.11 : 文部省通知 (各都道府県教育委員会教育長・各都道府県知事等あて、文部科学事務次官通知)「社会教育法の一部を改正する法律について」により、家庭教育支援の充実とともに、社会教育委員及び公民館運営審議会の委員に「家庭教育の向上に資する活動を行う者」を委嘱可能にした。</p> <p>*9.11 : にアメリカ同時多発テロ</p>
<p>2002 (H14)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○宇美町子育てネットワーク・う〜みん (福岡県宇美町) ○福岡町子育てネットワーク「ぶくぶく」(福岡県福岡市) ○大宰府ファミリーネット・はらっぱ (福岡県太宰府市) 	<p>■7.19 : 文部省今後の家庭教育支援の充実について懇談会報告『『社会の宝』として子どもを育てよう！』</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○八代子育てサークルネットワークレインボー（熊本県八代市） ○子育てネット帯広（北海道帯広市） ○境町子育てネットワーク Skip（茨城県猿島郡境町） ○上福岡市子育てサークル連絡会ふくふくネット（埼玉県上福岡市） ○としま子育てネットワーク（東京都豊島区） ○楽しい子育てを考える会（神奈川県川崎市麻生区） ○もりもりネットにいつ（新潟県新津市） ○なごや西区サークルネット（愛知県名古屋市中西区） ○さいたま市子育てネットワーク（埼玉県さいたま市） ○中部子育てサークルネットワークまいまい（鳥取県倉吉市近隣） 	<ul style="list-style-type: none"> ■9.20：厚労省、新少子化対策「プラスワン」
2003 (H15)	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てネットワーク佐倉子育て応援団（千葉県佐倉市） ○パペ's 絵本プロジェクト（東京都・全国） ○NPO 法人お助けネット（北海道白老町） ○NPO 法人ハンド・イン・ハンド（北海道全域） ○NPO 法人ミーサ・インフォメーション・Net（鹿児島県鹿児島市） 	<ul style="list-style-type: none"> ■3.20：中央教育審議会報告「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画のあり方について」 ■5.30：個人情報保護関連5法公布 ■6.6：公民館の設置及び運営に関する基準 ■7.16：「次世代育成支援対策推進法」施行 ■9.1：「少子化社会対策基本法」施行
2004 (H16)	<ul style="list-style-type: none"> ○おおむた・ママねっと（福岡県大牟田市） ○子育てネットワーク大分（大分県全域） ○特定非営利活動法人いわて子育てネット（岩手県盛岡市） 	<ul style="list-style-type: none"> ■3.31：「家庭教育支援のための行政と子育て支援団体との連携についての調査委員会（報告）」 *6.1：佐世保小6女児同級生殺害事件 ■6.4：閣議決定「少子化社会対策大綱」 ■12.24：少子化社会対策会議決定「子ども・子育て応援プラン」 *12.8：新聞に「ニート」問題52万人の急増
	計	122 実践

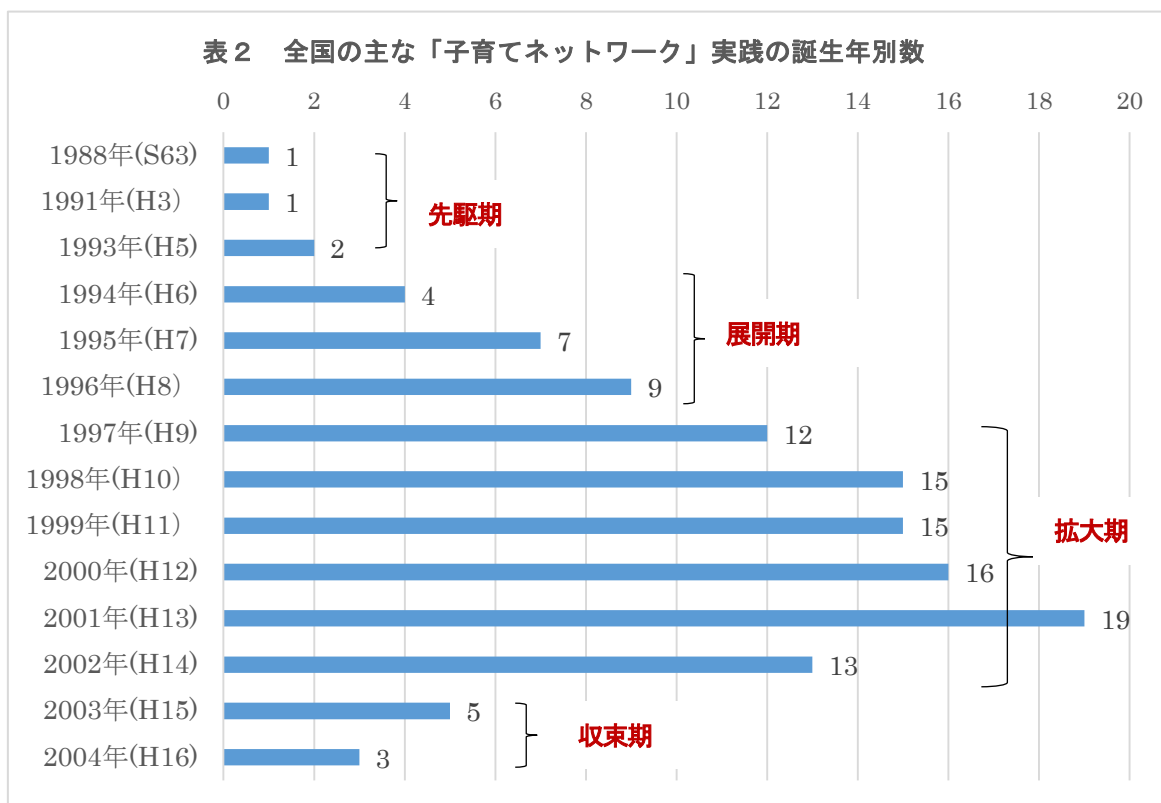
2-1 子育てネットワーク実践の名称

「表1」の資料から、まず、全国の主な子育てネットワーク実践の名称について考えてみる。多くの子育てネットワーク実践の名称には、「子育てネットワーク」「ネットワーク」「ネット」や「サークルネットワーク」や「サークル連絡会」等、「つながること＝ネットワーク」を名称に用いている実践が多いことがわかる。また「彦根子育てネットワーク」や「さっぽろ子育てネットワーク」等、多くの名称に市区町村名・地域名を始めとする生活圏域の地名が入れられていることがわかる。さらに、「高槻育児サークルネットワーク“ティピー”」や「乳幼児子育てネットワーク・ひまわり」等愛称を付けている実践、また、愛称はなくても略称等で呼び合っている実践も多い。

それらの名称の特徴から、子育てネットワーク実践は、市町村や生活圏単位等各々の実践の地域単位で誕生した実践であること、子育ての地域や人のつながりを目的に誕生した実践であること、その活動に関わる人たちによって命名され愛称を呼び合う等愛着を感じる実践であることから、全

国組織の下部組織として誕生したのではなく、各々の実践に関わるその地域で子育てに関わる人々のニーズから誕生した実践であることを推測することができる。

2-2 子育てネットワーク実践誕生の時期



それでは、全国の主な子育てネットワーク実践は、いつ頃誕生してきたのだろうか。「表1」にある子育てネットワーク実践122実践を「表2」では、誕生数や時代背景から、以下、4つの時期に区分を試みた。

まず第1期は、子育て支援施策が登場する前の時期であり、1988(S63)年1実践を皮切りに、1991(H3)年の1実践、1993(H5)年の2実践の合計4実践が誕生しており、「先駆期」と区分した。

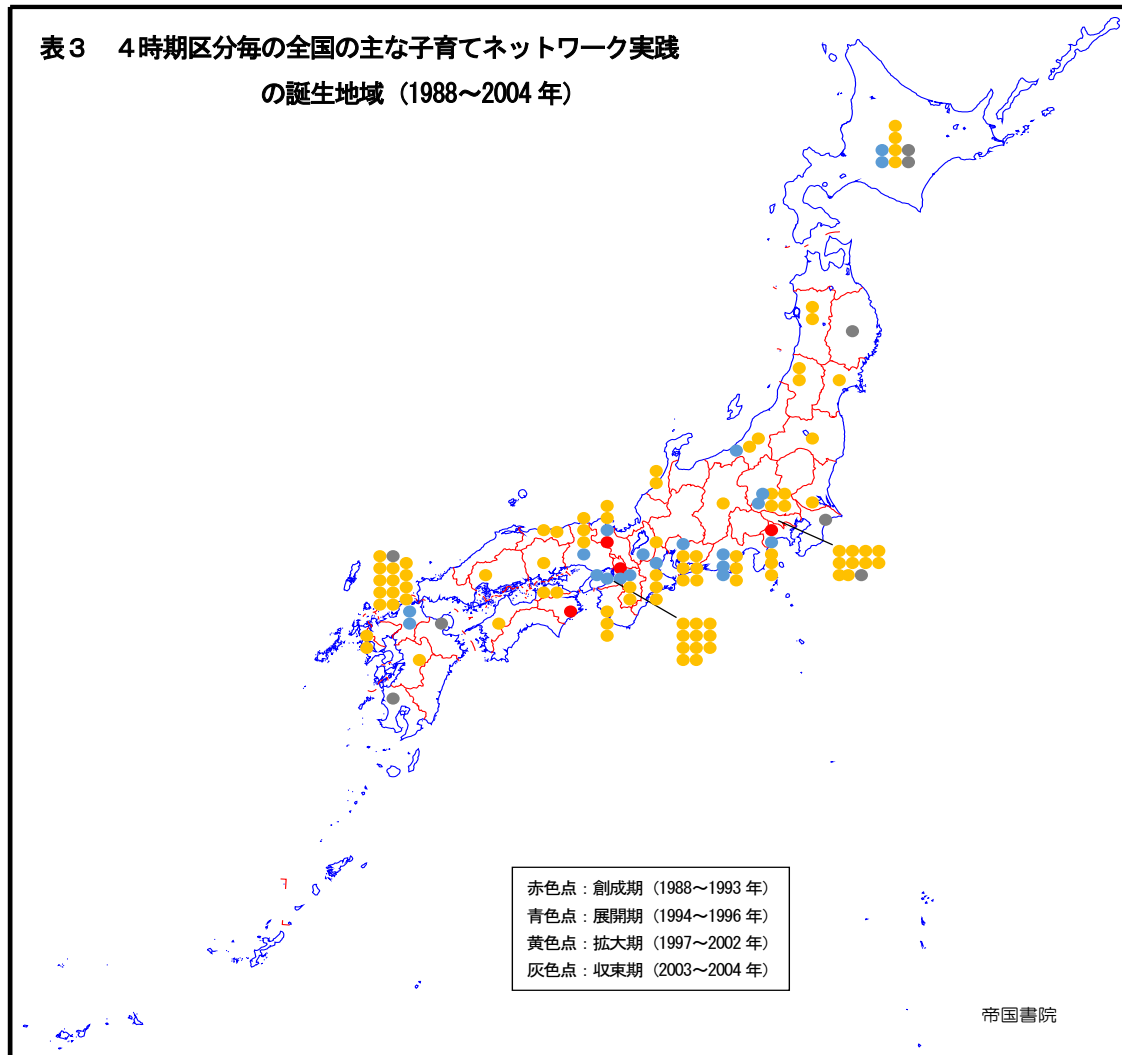
続いて第2期は、「エンゼルプラン」等の子育て支援施策が登場していく時期であり、1994(H6)年の4実践、1995(H7)年の7実践、1996(H8)年の9実践の3年間20実践が展開され、「展開期」と名付けた。

第3期は、文部省に家庭教育支援室が設置され、新エンゼルプランやプラスワン等の子育て支援施策が次々に登場する時期であり、子育てネットワーク実践は、1997(H9)年の12実践、1998(H10)年の15実践、1999(H11)年の15実践、2000(H12)年の16実践、2001(H13)年の19実践、2002(H14)年の13実践等、1997年から2002年までの6年間に合計90実践が誕生し、「拡大期」と名付けた。

第4期は、2003年以降も「次世代育成支援対策推進法」や「少子化社会対策基本法」の施行、「家庭教育支援のための行政と子育て支援団体との連携についての調査委員会(報告)」等、子育て支援施策や家庭教育支援がさらに拡充していくものの、2003(H15)年の5実践、2004(H3)年の3実践、

2年間の合計が8実践と把握数は減少傾向が見られていく。この時期については、実際の子育てネットワーク実践誕生数は定かではないが、公の文章からの把握数収束が見られたことから「収束期」と名付けた。

2-3 子育てネットワーク実践誕生の地域



それでは、子育てネットワーク実践は、どのような時期に、どのような地域で誕生したのだろうか。「表3」では、全国の子育てネットワーク122実践を、都道府県毎に点を記し、前述した時期区分毎に色分けし、赤色は先駆期(1988～1993年)、青色は展開期(1994～1996年)、黄色は拡大期(1997～2002年)、灰色は収束期(2003～2004年)に誕生した実践と記した。

まず赤色の先駆期の実践は、大阪府貝塚市の公民館で活動していた「貝塚子育てネットワークの会」を皮切りに、京都府、神奈川県、徳島県で誕生する等、関西地方から誕生していたことがわかる。

続いて青色の1994年以降の展開期においては、大阪府と静岡県に3実践、福岡県、北海道、埼玉

県に2実践、滋賀県、奈良県、愛知県、三重県、京都府、兵庫県、新潟県、神奈川県に1実践と主に全国の都市部を中心に先発的に展開されていたことがわかる。

続いて、黄色の1997年以降の拡大期においては、福岡県に13実践、大阪府に11実践、東京都に10実践、愛知県に6実践、北海道に4実践等、全国の地域に拡大の様子が見られるとともに、特に、転勤族が多いという特徴を持つ都市圏に拡大していた様子が伺える。

最後に灰色の収束期においては、千葉県、東京都の関東地方、北海道の2実践、鹿児島県、福岡県、大分県の九州地方の3実践、岩手県の東北地方等、ピークは過ぎたが全国的に実践が誕生していたことがわかる。

2-4 子育てネットワーク実践誕生時の出来事にみる時代状況

これらの子育てネットワーク実践の誕生を、「表1」にみる「主な出来事」から、誕生の時代状況をとらえていく。

まず、先駆期は、前述したように親の“育児不安”や“育児ストレス”、子どもの育ちの問題（例えば、仲間、時間、空間等“子どもの三間”の減少）等が顕在化していった時期とともに、湾岸戦争やバブル崩壊等世界情勢や経済状況が不安定な時期となる。

続いて1994年からの展開期は、「エンゼルプラン」等少子化対策から始まった子育て支援施策が次々と展開される時期を迎える。一方、1995年の阪神淡路大震災の大災害や地下鉄サリン事件等無差別な人が犯罪に巻き込まれる事件等が起こり、安全や安心の意識や災害や事件から身を守るための地域の人とのつながりがこれまで以上に重視されるようになった。

続いて1997年からの拡大期においては、1997年「酒鬼薔薇聖斗」を名乗る中学3年生が犯した神戸連続児童殺傷事件や2000年には17歳少年による佐賀バスジャック事件等が起こり、少年犯罪の凶悪化や低年齢化が問題視されるようになる。また、1999年には親同士の葛藤から子どもが犠牲になった東京文京区音羽幼稚園幼児殺害事件等も起こり、子育てに悩む親の問題や家庭の教育力の低下を指摘する世論の高まりがみられていく。一方、1997年の介護保険法の公布、1998年の男女共同参画基本法の公布により、家庭内で担ってきた介護や子育てという「ケア」の社会化という価値観から保育サービスや介護サービスの充実が図られていった。さらに、1995年の阪神淡路大震災を契機に、1998年には非営利活動法（NPO法）が制定され、子育てグループ活動や子育て支援活動をNPO法人として位置づけていく傾向も見られるようになった。

そして、2003年以降もさらなる子育て支援や家庭教育支援の施策の充実が図られていく時期となる。そこには、子育て支援施策の拡充が進みつつ、子育てネットワーク実践の誕生数把握の収束という反比例の状況が見られるようになる。ここでは、公的な子育て支援サービスを充実させるということが、市民自らの子育てグループ活動の必要性が薄れ、子育てネットワーク実践の誕生数の収束につながった可能性もある。これは、子育て支援施策が浸透した成果ととらえる側面があるとともに、地域福祉や住民自治の担い手としての市民主体の活動の喪失という側面もあると考えられる。

3. 子育てネットワーク実践の誕生についての考察—社会的位置づけの視点を中心に—

最後に、子育てネットワーク実践の誕生についてわかったことから、社会的位置づけの視点から考察を行う。

- ① 子育てネットワーク実践の名称からは、ほとんどの名称に「つながること＝ネットワーク」が含まれていたという共通点を持ちつつも、実践毎に地域の地名や市町村名、また愛称などをそこに関わるメンバーが命名し、国や一組織の傘下型ではないそれぞれが独立した実践として誕生していた。
- ② 子育てネットワーク実践誕生の時期は、これらの時期区分毎の誕生の様子から、a. 子育て支援施策前から子育てネットワーク実践は誕生していた、b. 1980年代以降社会問題となった“育児不安”や“育児ストレス”の打開や“子どもの育ち”への危機感から「つながり＝ネットワーク」を求めている、一方、c. 1994年から2002年くらいまでは子育てネットワーク実践誕生数は急増し、子育て支援施策拡充の状況と比例していた。一方、d. 2003年以降は、子育て支援施策はさらなる拡充が進められているにもかかわらず、子育てネットワーク実践の把握数は収束に向かったことから、子育て支援施策とともに国からの影響を受け、誕生しているわけではない。
- ③ 子育てネットワーク実践誕生時の地域状況から、子育てネットワーク実践は、関西地方を皮切りに都市圏を中心に徐々に全国に拡大し、当時の社会問題であった核家族化や孤立の子育てに陥りやすい転勤族の多い都市圏の親たちが、必要に迫られ誕生させてきた実践の可能性がある。
- ④ 子育てネットワーク実践誕生時の時代状況からわかったことは、a. 子どもの育ちに対する不安や危機感が大きくなった時代であった。b. 孤立や不安の子育ての問題が増大していた時代であった。c. 安心・安全を求める思いが増す時代であった。d. NPO法制定により子育てグループ活動の継続性や安定性が可能となり公共的な役割も担う気運が高まっていた。e. 一方、子育て支援が拡充し続ける時期においても子育てネットワーク実践の誕生数が収束していた。

これらの考察結果により、子育てネットワーク実践の誕生とは、子育て問題の解決に向けた公共的な取り組みが地域に浸透していなかった時期に、特に「つながること＝ネットワーク」の必要性を感じた都市圏の子育て関係者を中心に、自ら行動を起こし、実践を誕生させ、問題解決に向けた活動に取り組むために全国に次々誕生した様子を見ることができた。しかし、誕生の時期は、子育て支援施策の拡充の時期と子育てネットワーク実践の誕生が比例していた時期があるとともに、子育て支援施策が拡充され続けているにもかかわらず誕生数は収束していく傾向がみられた。すなわち、子育て支援施策の拡充とともに誕生し、子育て課題のニーズが満たされてくることによって、子育てネットワーク実践の目標が達成され、収束してきた実践とのとらえかたもできる。

4. おわりに

本稿では、誕生の一考察という限界があるため、子育て支援施策の動向と子育てネットワーク実践の関係性までをとらえることができず、当初の研究目的であった「子育てネットワーク実践の社会的な位置づけ」をあきらかにすることはできなかつた。しかし、この本研究成果と、新たに取り組んでいる子育て支援施策等における子育てネットワーク実践の用語の位置づけを考察していく中で、子育てネットワーク実践は、子育て問題を社会に発信していく役割を担い、子育て支援施策を引き出したり、新たな公的サービスを創り出してきたりという社会的な位置づけが見えつつある。今後の研究によって、子育て支援施策の拡充の時代における子育てネットワーク実践の社会的な位置づけをあきらかにしていきたい。

¹主な子ども劇場おやこ劇場運動に関する資料等は以下を参照のこと。佐々木敦子「新しい子どもの文化の創造をめざして—福岡子ども劇場運動」月刊社会教育、p.22~31、1975年11月。藤沢和代「文化運動に参加する母親のキャリア分析—北九州子ども劇場を例として」日本の社会教育26号、p.127~137、1982年。大森智恵子「地域の子育て・文化運動と子ども劇場の発展」『月刊社会教育』No.447、p.27~31、1993年7月。三宅玲子「子ども劇場とともに20年歩んで」『月刊社会教育』No.515、p.70~76、1998年10月。千田忠「子ども劇場と親の意識の問題」悲劇喜劇第52号、p.35~39、1999年。武藤定明「子どもが“子ども”として生きられる地域社会を！！—特定非営利活動法人『子ども劇場全国センター』の活動から」青少年問題第47号、p.27~33、2000年。福田房枝「子ども劇場としての取り組み」、『現代のエスプリ』408号、p.155~161、2001年7月。

² 福島順「社会教育の観点からみた地域教育文化運動—子ども劇場おやこ劇場運動を事例として—」大阪大学教育学年報第7号、p.231~244、2002年。

³子育てサークル活動に関する主な論文や資料等は以下を参照のこと。結城恵「メンバーのサークルの関わり方とサークル活動への評価：子育てサークル活性化のために」国立女性教育会館研究紀要第5号、p.109~118、2001年。結城恵・汐見幸幸・田嶋昭子・鈴木玲子「シンポジウム 少子化社会の子育てのゆくえ：広がる子育てサークル」国立女性教育会館研究紀要第5号、p.129~138、2001年。拙稿「乳幼児をもつ親の子育てサークル参加の契機と学習活動に関する実証的研究—子育てサークル参加型学習への事例を踏まえて」九州教育学会研究紀要30号、p.227~233、2002年。福井聖子「子育てサークルの課題の検討と支援についての考察」子ども家庭福祉学第4号、p.41~50、2004年。寺田恭子「子育て支援から子育てコミュニティ創生に向けての課題—子育てサークル調査をふまえて」子ども社会研究第11号、p.61~74、2005年。品川ひろみ「成員からみた子育てサークルの解散—サークルの誕生から解散後まで」子ども社会研究第11号、p.45~60、2005年。管田貴子「子育てサークルの運営を通じた母親のエンパワメントについて—Mサークルの事例から—」幼年教育研究年報第29巻、p.41~48、2007年。金昌震「大都市における子育て支援の現状と課題：札幌市事例を中心に」北海道大学代が金文学研究科研究論集13号、p.437~451、2013年。

⁴子育てネットワーク実践に関する主な論文や資料等は、前掲3とともに以下を参照のこと。恒吉紀寿「貝塚子育てネットワークの会の展開条件と可能性」北海道大学産業教育計画研究施設研究室報告書47（地域生涯学習の計画化）、p.244~265、1995年。恒吉紀寿「子どもと大人の自己教育主体の形成」山田定一監修・神田嘉延・遠藤知恵子・宮崎隆志編『生涯学習を組織するもの 講座 主体形成の社会教育学（2）』p.43~60、1997年。白石淑江「子育てネットワークづくりに関する研究—名古屋市およびその周辺地域の実態調査から」同朋大学論叢76号、p.136~118、1997年。原田正文「みんなで子育てQ&A—はじめの一步からネットワークづくりまで—」農文協（健康双書）、1997年。白石淑江「子育てネットワークづくりに関する研究—愛知県「子育てネットワーク」の活動—」同朋大学論叢、p.27~43、2000年。木脇奈智子「子育てネットワークに関する研究—考察：子育てサークルの類型と今日的課題」家族関係学第17号、p.13~22、1998年。恒吉紀寿「子育てネットワークからはじまる可能性」月刊社会教育No.508、p.6~11、1998年3月。原田正文「みんな『未熟な親』なんだ—グループ子育てのすすめ—」農文協（健康双書）、1999年。梅原直子「貝塚子育てネットワークの会」子どもの文化第31号、p.168~173、1999年。相戸晴子「子育てネットワークの必要性と課題—筑豊子育てネットワークの活動事例より—」日本生活体験学習学会誌創刊号、p.71~80、2001年。相戸晴子「乳幼児をもつ親の子育てサークル参加の契機と学習活動に関する実証的研究—子育てサークル参加型学習への事例を踏まえて—」九州教育学会研究紀要第30巻、p.227~233、2002年。河野和枝「支えあう子育て活動と親の学習過程—さっぽろ子育てネットワーク活動と親たちのエンパワメント」北海道大学大学院社会教育研究第20号、p.37~53、2002年。相戸晴子「乳幼児をもつ親の子育てサークル参加の契機と学習活動に関する実証的研究—子育てサークル参加型学習への事例を踏まえて—」九州教育学会研究紀要第30巻、p.227~233、2002年。原田正文「子育て支援とNPO」朱鷺書房、2002年。中野いずみ「子育てサークルから子育てネットワーク活動へ—その社会的意義と可能性—」共栄児童福祉研究第9号、p.118~123、2002年。杉野裕子「現代の子育てと育児ネットワーク」母子研究22号、p.38~53、2002年。江口愛子・森未知「子育てネットワーク等子育て支援団体についての情報提供の在り方に関する調査研究」国立女性教育会館研究紀要Vol.7、p.109~117、2003年。津止正敏・藤本明美・斎藤真緒「京都の子育てネットワーク—子育てサークルの共同のチカラ—当事者性と地域福祉の視点から—」文理閣、2003年。金山美和子「子育ての相互支援活動における現状と課題(2)」上田女子短期大学紀要、p.1~13、2004年。津止正敏・藤本明美・斎藤真緒編「京都の子育てネットワーク—子育てサークル共同のチカラ—当事者性と地域福祉の視点から」文理閣、2003年。恒吉紀寿「地域をつくる市民活動と学習実践」、上野景三・恒吉紀寿編『岐路にたつ大都市生涯学習：と市公民館発祥の地から』北樹出版、2003年。坂本純子「地域の子育て支援センター—新座子育てネットワーク」住民と自治498号、p.18~21、2004年。拙稿「園真紀子・稗田佳子「筑豊地域における『子育てネットワーク』8年間のあゆみ—親と子の生活課題と地域へのアプローチ—」月刊社会教育No.595、2005年5月。金山美和子「地域子育て支援施策における子育てネットワークに関する考察」上田女子短期大学紀要28号、p.21~29、2006年。西垣美穂子「地域子育て支援と方策に関する考察：京都市内の子育てネットワークの活動を通して」佛敎大学大学院紀要34号、p.229~245、2006年。金山美和子「地域子育て支援施策における子育てネットワークに関する考察」上田女子短期大学紀要、p.21~29、2006年。西垣美穂子「子育て支援の方策に関する考察—京都市内の子育てネット

ワークの活動を通して」 佛教大学大学院紀要第 34 号、p.229～245、2006 年。相戸晴子「乳幼児期の子育てから始まる子育てネットワーク形成の一考察—福岡県筑豊地域の子育てネットワーク活動の事例より—」九州大学大学院社会教育思想研究第 3 号、p.93～110、2007 年。中谷奈津子・橋本真紀『子育てネットワーク』活動の体系的把握の試み—『子育てネットワーク』に関する論文、雑誌記事の検討から— 愛知教育大学幼児教育研究第 13 号、p.31～37、2007 年。中谷奈津子・橋本真紀・西村真美『子育てネットワーク』と行政との関係に関する研究—エンパワメントプロセスからの分析 厚生指針 55 号 (2)、p.16～23、2008 年。橋本真紀『子育てネットワーク』の類型化に関する研究—実施活動の分析から— 子ども家庭福祉額第 8 号、p.23～34、2009 年。社会教育推進全国協議会編「社会教育・生涯学習ハンドブック〈第 8 版〉」エイデル研究所、2011 年。山縣文治監修・中谷奈津子編「住民主体の地域子育て支援—全国調査にみる『子育てネットワーク』」明石書店、2013 年。相戸晴子「子育て支援拡充の時代における『子育てネットワーク』活動の展開について—「筑豊子育てネットワーク」18 年の活動記録をもとに—」九州大学大学院社会教育研究紀要第 1 号、p.35～50、2015 年。

⁵相戸晴子「子育てネットワークの必要性と課題—筑豊子育てネットワークの活動事例より—」日本生活体験学習学会誌創刊号、p.71～80、2001 年。

⁶前掲 4 参照。

⁷例えば、川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかる NP0・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005 年や村田晶子「現代の教育改革における家庭教育施策の問題性—女性と家庭の位置づけを通して—」早稲田大学哲学会「フィロソフィア」第 89 号、2001 年、村田晶子『子育て支援』政策の問題性—育児期の女性にとっての意味— 早稲田大学大学院「文学研究科紀要」第 50 輯第 1 分冊、2004 年等。

⁸ この表は、以下の文献や資料に掲載された「子育てネットワーク」実践のうち、発足年等が確認されたものより、筆者が作成した。こころの子育てインターねっと関西「第 1 回子育てネットワーク全国研究交流集会 「子育てネットワーク」で切り拓こう！子育て新時代」2000 年 1 月。こころの子育てインターねっと関西「ひろがれ！子育てネットワーク～全国の子育てネットワーク調査結果と事例集～」2001 年 3 月。こころの子育てインターねっと関西「第 2 回子育てネットワーク全国研究交流集会 ひろがれ！子育てネットワーク」開催資料、2001 年 7 月。こころの子育てインターねっと関西「全国子育てネットワーク実践事例集 子育てネットワーク全国研究交流集会—子育て支援の新たな段階を切り拓く！—」2003 年 3 月。ふくおかボランティア活動支援事業実行委員会、福岡県教育文化奨学財団振興事業「子育て応援 BOOK～福岡発！地域子育て～「はじめのいっぽ」」2005 年 1 月。主任研究者 山縣文治「地域子育て支援の推進にかかわる住民主体活動の果たす役割に関する研究—子育てネットワーク活動に関する調査—」平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究 B）報告書、2006 年。山縣文治監修・中谷奈津子編「住民主体の地域子育て支援—全国調査にみる『子育てネットワーク』」明石書店、2013 年。特定非営利活動法人子育て市民活動サポート Will「子育てネットワーク形成から始まる多様な市民活動への参画—男女共同参画の視点から—」、財団法人福岡県女性財団平成 21 年度調査研究活動支援事業報告書、2010 年。独立行政法人国立女性教育会館「ヌエック・ブックレット 2 次世代育成と公民館—これからの家庭教育・子育て支援をすすめるために—」2004 年。独立行政法人国立女性教育会館「平成 15 年度 子育てネットワーク研究交流協議会開催資料 子育てネットワーク in ヌエック 子育てで、人がつながり、育ち、地域が変わる」2003 年。社会教育推進全国協議会編「社会教育・生涯学習ハンドブック〈第 8 版〉」エイデル研究所、2011 年。